行願寺は下御霊の南に隣る。〔一名革堂〕天台宗にして本尊十一面千手観音は長八尺の立像、行円上人の作なり。〔西国第十九番の巡礼所、又洛陽巡りの第四番なり〕加茂明神の石塔〔五輪の塔婆にして高壹丈余なり、塔前に鳥居あり、行円上人これを建る〕当寺の開基行円上人は原鎮西の人なり、寛弘二年に皇城に遊び、頭に宝冠をいたゞき身には革服を着せるゆゑ、都の人革上人と呼り。行円つねに千手大悲陀羅尼を持し、良材を求め観音の像を刻ん事を願へり。ある夜の夢に壹人の沙門来り、霊木を送らんといひて覚ぬ。翌朝果して一僧来り告けるやうは、鴨社の傍に苔蒸たる槻樹あり、六斎日毎に千手の神咒を誦する声聞へぬ、むかし鴨太神宮この樹下に天降り給ふとぞ、則行円これを尋ね求め、則神官に乞うけ菩薩の像をきざみ、行願寺を営て安置す、これ当寺の本尊なり。又行円革服を常に着けるゆゑ、此寺を革堂と称す。其後行円の弟子仁弘法師、此余材を得て又尺八の像を作り、西山良峰寺の本尊とす。当寺初は一条通新町の西にあり、故に一条革堂といふ。